

第六次土岐市総合計画 基本構想（骨子案）

第 1 編 序論

第 1 章

計画策定にあたって

1. 計画策定の背景・目的

- 土岐市では、平成 18 年度を初年度とし平成 27 年度を目標年次とする「第五次土岐市総合計画」において、「緑・美濃焼・みんなの笑顔 未来を拓く快適・交流都市」を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。
- この間、我が国の社会経済状況は、少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構成の変化、自然災害をはじめとする様々なリスクに対する危機管理意識やエネルギー・環境に対する市民意識の高まりなどにより、大きく変化しています。また、地方分権の推進、参画と協働によるまちづくりへの期待など、市町村を取り巻く状況も大きく変化しており、こうした変化に柔軟に対応したバランスのとれた行政運営が必要となっています。
- このような現状を踏まえ、本市の地域特性や資源を最大限に活かしながら、市民と行政が協働・連携して各種の政策課題を解決するための方策を探り、引き続き住みよいまちづくりを進めることを目的とし「第六次土岐市総合計画」を策定します。

<計画策定の 4 つの視点>

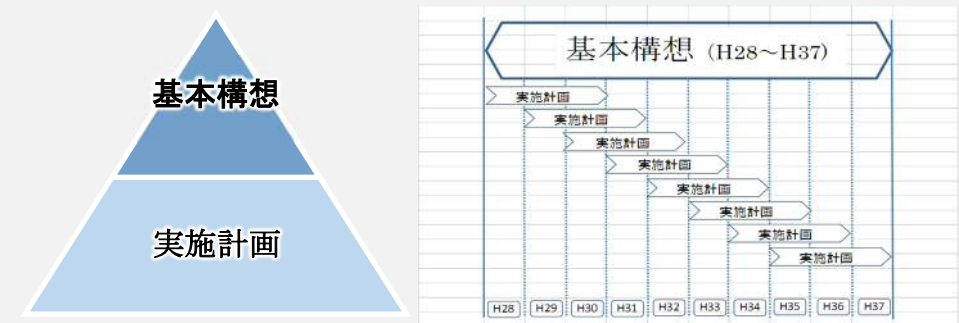
- ①時代潮流に対応した総合計画
- ②市民の意向を踏まえた基本構想と計画の実効性、弾力性、即応性を備えた実施計画の 2 層構造からなる総合計画
- ③市民にわかりやすい簡素な総合計画
- ④行政経営を円滑に進める総合計画

2. 計画の構成と期間

○本計画は、「基本構想」及び「実施計画」により構成します。

基本構想 基本構想は、長期的な視点から目指すべきまちの将来像を定め、将来像の実現に向けて展開する施策の大綱を示します。平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。

実施計画 実施計画は、基本構想に位置付けられた目標を達成するための施策を体系的に示し、具体的な事業を位置づけます。計画期間は 3 年間とし、毎年度ローリング方式で見直します。



第 2 章

計画策定の背景

1. 時代潮流

- (1) 少子高齢化・人口減少社会の進行
- (2) 地方分権と行政改革の推進
- (3) 価値観の多様化
- (4) 環境問題への意識の高まり
- (5) 安全・安心意識の高まり
- (6) 地域経済を取り巻く環境の変化
- (7) 教育や子育てに対する関心の高まり
- (8) 地域の歴史、文化の再認識
- (9) 市民参画・協働意識の高まり
- (10) 高度情報化の進展
- (11) 社会資本の老朽化
- (12) 新たな広域交通基盤の整備

2. 土岐市の特徴と現状

【強み】

- 全国有数の陶磁器の産地
- 観光・交流による来訪者数の拡大
- 豊かな自然環境と歴史資源
- 広域交通基盤の整備
- ・・・

【弱み】

- 人口減少の継続と少子高齢化の進行
- 産業力の低下（事業所数、従業者数の減少）
- 中心市街地の衰退・空洞化
- 財政力の脆弱性
- 市民参画・協働まちづくりの取り組みの遅れ
- ・・・

3. 市民意向

- 総合計画の認知度は低く、市民意見がまちづくりに反映されていないと感じる市民も多い。
- 企業においても地域貢献活動等への取り組みは一部に限定。
- その一方、総合計画づくりへの関心は高く、市民の意見を聞く場の充実、自治会やNPO等を中心とした地域活動の充実を望む声も多い。自治会活動では、会員の高齢化や新規入会者の減少など人材不足が課題となっている。
- 土岐市のイメージは「緑豊かで安全なまち」と認識され、企業活動においても、交通の利便性や災害や治安面で心配がないことが優位性となっている。
- 今後は、医療や福祉、子育て支援等が整った安全安心なまちへの期待が大きく、特に中学生からは買い物やレジャーの便利さや働きがいのあるまちを望む声も多い。10年後の理想の土岐市を表すキーワードは、「安心・安全」、「活力・元気」、「福祉」、「自然の豊かさ」など。
- 年代を問わず6割以上の市民が暮らしやすいと評価しているが、買い物や通勤・通学など日常生活の利便性への不満から、市外で暮らしたいと考える市民も増えつつある。
- 市政に対する評価では、「病院の充実」、「土岐市駅周辺の整備」、「身近な生活道路の整備」、「雇用環境の充実」などへの不満が高く、重点的な対応が期待されている。
- 産業振興に関しては、企業誘致やハード整備とあわせて、産業振興を担う人材の確保・育成も重要と考えられている。

第 3 章

まちづくりの課題

人口減少の抑制と
快適に住み続けられる
居住環境形成

まちの活力再生と
新たなにぎわい創出

安全・安心な地域づくり

次世代を育む地域づくり

持続可能なまちづくりを
支える行財政運営

・・・

第2編 基本構想

<p>第1章 まちの将来像</p>	<p align="center">緑・美濃焼・みんなの笑顔 未来を拓く快適・交流都市 (第五次総合計画) ※以下のキーワードをふまえ再設定を検討</p> <p>(キーワード) 土岐市の魅力 : 「自然・緑・里・山」、「美濃焼・陶磁器・やきもの」、「豊かさ・笑顔」、「暮らしやすい・静か・便利・空気がきれい」、「安全・安心、平和」など まちづくり動向 : 健康・いきがい、幸せ・幸福感、きずな、つながり、活力・創生、協働・共生、自立、自助・共助 など</p>				
<p>第2章 めざすまちづくりの方向性</p>	<p>1. 基本指標 ①人口・世帯数 (推計値) 平成37年 人口 : 56,600人 (平成26年 60,526人) 世帯数 : 26,400世帯 (平成26年 23,791世帯)</p>	<p>※基本推計に対して、施策の実施によって出生率の上昇、社会移動の改善を見込んだ目標値</p> <p>②就業人口 (設定予定) ③その他の指標 (設定予定)</p>	<p>2. 土地利用構想 ①土地利用の基本方針 ②都市軸・エリアの設定 1) 中心交流拠点 2) 自然・観光交流拠点 3) 自然・複合交流拠点 4) 交流ネットワーク</p>		
<p>第3章 基本目標・施策の大綱</p>	<p>基本目標1 安心福祉 支えあう安心した暮らしづくり</p> <p>①保健の充実 ②病院の充実 ③地域福祉の充実 ④児童福祉の充実 ⑤高齢者福祉の充実 ⑥障がい者福祉の充実 ⑦社会福祉の充実 ⑧保険・年金の健全運営</p>	<p>基本目標2 経済環境 環境と共生した活力あるまちづくり</p> <p>①陶磁器産業の振興 ②新産業の育成 ③商業の振興 ④観光の振興 ⑤農林業の振興 ⑥雇用環境の充実 ⑦環境保全の推進 ⑧廃棄物処理・リサイクルの推進 ⑨交通安全の推進 ⑩公共交通の充実</p>	<p>基本目標3 教育文化 心豊かなかがやく人づくり</p> <p>①社会教育の充実 ②学校教育の充実 ③生涯学習の充実 ④スポーツの振興 ⑤文化・芸術の振興</p>	<p>基本目標4 行財政運営 協働による開かれたまちづくり</p> <p>①協働まちづくりの推進 ②情報共有の推進 ③男女共同参画の推進 ④適正な行政経営の推進 ⑤国際交流・国際化の推進 ⑥防犯の強化</p>	<p>基本目標5 都市基盤 暮らしを支える安全な基盤づくり</p> <p>①消防・救急の充実 ②防災の強化 ③中心市街地の整備 ④道路・河川の整備 ⑤上下水道の整備 ⑥住環境・街並みの整備 ⑦公園・緑地の整備</p>
<p>第4章 地域まちづくり構想</p>	<p>●土岐津地域 【地域の現状・課題】と【今後の取組】</p>	<p>●下石地域 【地域の現状・課題】と【今後の取組】</p>	<p>●妻木地域 【地域の現状・課題】と【今後の取組】</p>	<p>●鶴里地域 【地域の現状・課題】と【今後の取組】</p>	
<p>第5章 基本構想の推進に向けて</p>	<p align="center">協働と自主自立による まちづくりの浸透と実践</p>	<p align="center">行政経営の観点からの 信頼される市政運営の推進</p>	<p align="center">PDCAサイクルに基づく 構想の進行管理・評価</p>	<p align="center">地方創生に基づく取り組みの 重点的な推進</p>	